



高規格幹線道路について五十嵐市長にきく

高規格幹線道路は地域の暮らしを豊かにする道路

政府は、6月30日の閣議で先に国土審議会から答申された国土庁の第四次全国総合開発計画（四全総）を決定しました。これにより、21世紀を目標とした同計画が実質的に始動することになります。その四全総の中に、深川留萌間高規格幹線道路50*が盛り込まれました。

そこで、60年度から官民一体となって数多くの陳情活動を行ってきた深川留萌間高規格幹線道路とは、どうゆう道路なのか。そして、市民生活に、どう影響するのか市長に聞いてみました。

◆◆◆
——高規格幹線道路（以下「高規格道路」とは、どうゆう道路なのか。——

まず、今回の閣議決定により、市民はもとより沿線住民が熱望していた深川留萌間高規格道路が実現にむけて大きく動き出すことができました。これは、ひとえに、関係各位のご支援とご協力の賜ものと、この紙面を通して厚くお礼申し上げます。

さて、高規格道路についてですが、高速道路網をおぎなう「第二の自動車専用道」と

の中間規模、いわば「準」高規格道路といえます。

地域の暮らしを豊かにする道路

——では、高規格道路が建設されることによって市民生活がどのような影響がありますか。

まず、1日で往復できる範囲、つまり日帰り圏の拡大です。自動車という手軽な交通手段だけを用いて、日帰り

できる地域が増えることは確実にになります。

また、急病人が発生した時大都市にある設備の整った病院へ短時間で送り込むことができることや、大都市の病院からの医師の派遣、交流が容易になるなど、道路ネットワーク整備が地域の医療の充実につながります。

他にも、送行費の節減・事故率の減少・冬道の安全送行など市民生活に良い影響があると思います。

——では、工業・商業・農水産業・観光などの各種の産業活動に高規格道路がどのような影響がありますか。

まず、工業界では、時間短縮による部品機器類の輸送、製品の輸送が遠距離まで可能となると高規格道路に沿って工場立地が進むと思います。また、農水産業界においても考えられる市場圏拡大効果があると思います。つぎに、農水産業界では、

輸送容量の拡大により一括大量出荷が可能となり、その結果産地の形成、流通施設の整備などが実現します。

また、時間距離の短縮により、遠隔市場出荷（市場圏の拡大）、緊急出荷、定時出荷荷傷みの減少、出荷したものが同じ生産地より鮮度の高いものを市場へ入れることができ、高く評価されると思います。また、出荷ルートが多様化し、出荷が確実にになります。つぎに、商業界では、時間距離の短縮により商業活動圏が拡大して、仕入れ・販売先の変化、商圏の変化などがあらわれます。

道路建設はまだスタート地点

——これから高規格道路早期建設に向けて、なにをしなければならぬのですか。

まず、道北（旭川圏）の開かれた港として整備を進めている留萌港の早期完成を旨とすること。

また、留萌の工業・農水産業・商業・観光などの振興を進めることなどがあります。それ以上に、大切なことは、なぜ、高規格道路建設が、将

また、工業、農水産業等の産業活動の変化に伴って地域の産業活動が活発になると雇用機会の増大、人口の流入所得の増加などが生じ、需要面から商業活動を刺激すると同時に、物流面での合理化が進みそのことも商業活動にプラスの効果を与えます。

つぎに、観光では、時間短縮によるマイカーによる日帰り観光が可能になるとともに近隣の観光地との連絡ルートが緊密化され、観光客が増加すると思います。

このように、高規格道路の建設は、地域の暮らしを豊かにする道路です。

来の留萌の街づくりのために重要なのか、市民がひとりひとり考えていただき、早期建設実現にむけて、今まで以上に市民の皆さんとともに運動を続けていかなければなりません。

そのためにも、市民の皆さん、高規格道路の早期建設運動に、感心を持ってください。



国道231号線（旧留萌中学校前）

高規格幹線道路